現地説明会資料　平成２７年１０月２４日（土）

「かごしま近代化遺産調査事業」

根占砲台跡

列強を見据えた、薩摩の護り

対岸に見える開聞岳

錦江湾口に向けた砲門

根占砲台は，西欧列強の相次ぐ来航に危機感を強めた薩摩藩（第 10 代藩主 島津斉興）により，弘化４（1847）年に築かれました。対岸の山川・指宿（弘化元年～）に次いで早い時期に造営されたのは，これらが錦江湾口という要衝の地であったためと考えられます。

さらに，雄川河口の瀬脇と，根占の町を見下ろす上ノ山にも砲台が築かれました。薩英戦争直前の文久２（1862）年には，根占砲台の改築工事が行われました。

明治 10（1877）年の西南戦争により鹿児島の砲台群は閉鎖されます。県内には祇園之洲・新波止・天保山などの砲台跡が現存しますが，根占砲台跡は，1840 年代後半～ 50 年代初頭に築かれた初期砲台群の中では，県内に残る唯一の遺構です。石垣で囲まれた高い土塁や凝灰岩の切石を使用した砲門など，旧式大砲を備えた初期砲台の特徴を現代に伝える貴重な遺産であるといえます。

今回の調査では，これまで草木や土砂に覆われていた海側の石垣を検出し，土塁全体の状態を明らかにしました。また，遺構周辺にトレンチ（試掘坑）を入れ，石垣の地下構造や当時の地表面，その他の遺構の残存状況を確認しました。

砲門から遙かに望む開聞岳と錦江湾の景観は，当時のままです。海風を感じながら，150 年前の“風雲急を告げる幕末”に，想いを馳せてみましょう。

海側から見た石垣の様子

○根占砲台関連年表

西暦(和暦)		鹿児島・日本のできごと
1824(文政7)年		上陸したイギリス船員を射殺(宝島事件・十島村)
1825(文政8)年		幕府が**無二念打払令**(**異国船打払令**)を公布
1837(天保8)年		来航したアメリカ商船を砲撃(**モリソン号事件**・山川)
1838(天保9)年		小根占の地頭仮屋に大砲一挺を配置
1840(天保11)年～1842(天保13)年		**アヘン戦争**
1843(天保14)年		イギリス艦が琉球・宮古島に来航し，測量を強行
1844(弘化元)年		フランス艦が那覇に来航，山川に台場建設
1846(弘化3)年		島津斉興が上町向築地(鹿児島市浜町)に鋳製方を創設
1847(弘化4)年	6月	大山崎(指宿)，山川に砲台建設
	7月	佐多・小根占に砲台建設(伊佐敷砲台・根占砲台)
1848(嘉永元)年	2月	島津斉興が小根占辺田村海岸の砲台を視察 五十斤臼砲を根占砲台の備砲とするように命じる
1849(嘉永2)年頃		滝之上火薬製造所(鹿児島市)の製法を洋式に変更
1850(嘉永3)年6月～1851(嘉永4)年3月		天保山砲台(鹿児島市)完成，内之浦・垂水・桜島・出水・阿久根・串木野・久志・秋目ほか各地に砲台建設
1851(嘉永4)年		島津斉彬が藩主に就任，磯(鹿児島市)に反射炉・溶鉱炉等を建設，坊津・枕崎・頴娃・山川・指宿の砲台を巡視
1852(嘉永5)年		島津斉彬が藩内各地の砲台を改築するように命じる
1853(嘉永6)年	7月	大門口砲台(鹿児島市)建設
	10月	祇園之洲砲台(鹿児島市)建設
	12月	島津斉彬が小根占・大根占の各所砲台を巡視
1854(安政元)年	8月	弁天波止砲台・新波止砲台(鹿児島市)建設
1856(安政3)年	7月	新型のキスト砲架(後部旋回式)完成
1862(文久2)年		**生麦事件**　根占砲台の改築
1863(文久3)年		**薩英戦争**　敷根火薬製造所(霧島市)の建設
1877(明治10)年		**西南戦争**　政府軍が鹿児島各所の砲台を閉鎖

【参考文献】
・松尾千歳 2012「薩摩藩の砲台整備事業」
『鹿児島紡績所跡・祇園之洲砲台跡・天保山砲台跡』
鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(172)
・『薩藩海軍史』　・『根占郷土史』

○発掘調査の成果

石列（せきれつ）

隅石（すみいし）

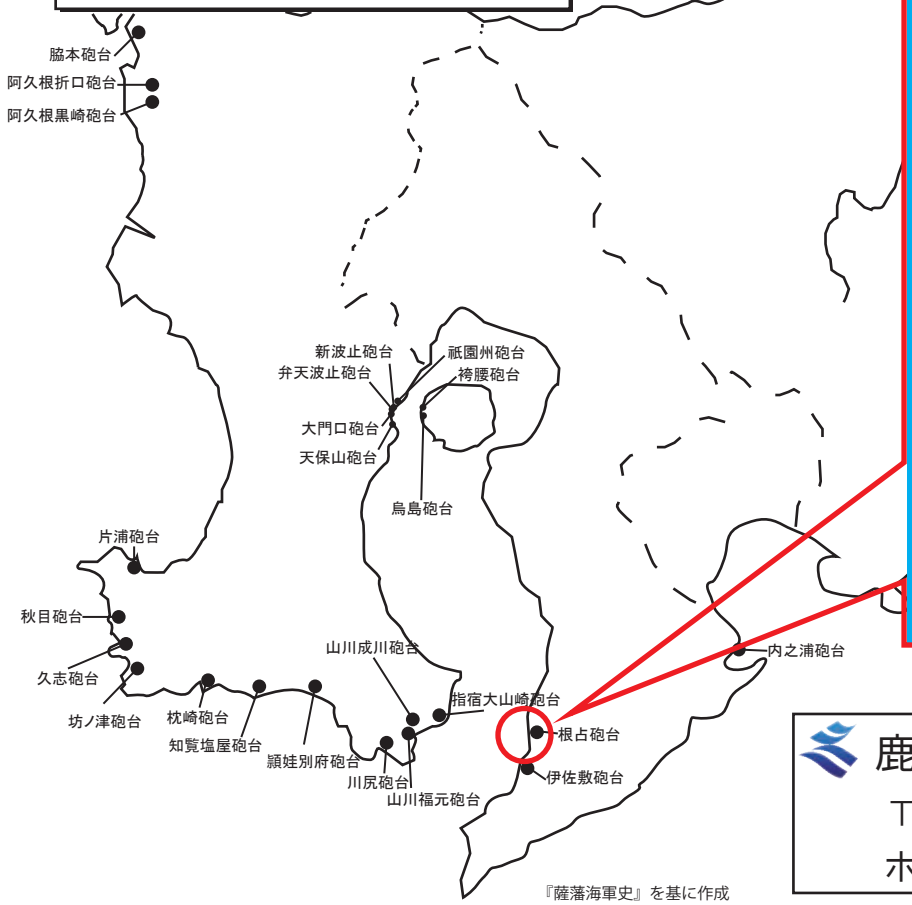
反力石（はんりょくいし）

石垣の裏込め（うらごめ）

砲床（ほうしょう）の基礎

砲台遺構全景

砲台が築かれた主な場所



『薩藩海軍史』を基に作成

瀬脇砲台跡（近景）

鹿児島県立埋蔵文化財センター
TEL(代表)　0995−48−5811
ホームページ　http://www.jomon-no-mori.jp/